

令和6年生駒市教育委員会第11回定例会会議録

1 日 時 令和6年11月25日(月) 午前9時30分～午後11時25分

2 場 所 生駒市役所 大会議室

3 審査事項

- (1) 報告第16号 臨時代理につき承認を求めることについて(令和6年生駒市議会第5回(12月)定例会提出議案の意見について)
- (2) 報告第17号 教職員人事異動方針について
- (3) 議案第28号 生駒市体育施設条例施行規則の一部を改正する規則の制定について
- (4) 議案第29号 幼稚園教諭・保育士人事異動方針について

4 教育委員会出席者

教育長	原 井 葉 子		
委員(教育長職務代理者)	飯 島 敏 文	委 員	レイノルズあい
委員	中 川 義 三	委 員	吉 尾 典 子

5 事務局職員出席者

教育部長	鋏 田 明 年	生涯学習部長	坂 谷 操
教育部次長	松 田 悟	教育総務課長	山 本 英 樹
教育指導課長	花 山 浩 一	幼保こども園課長	大 畑 勝 士
教育政策室長兼務		幼保こども園課指導主事	長 崎 文
幼保こども園課指導主事	牧 野 由 美	児童総務課長	武 元 一 真
生涯学習課長	井 川 啓 一 郎	スポーツ振興課長	西 政 仁
教育総務課課長補佐	松 田 美 奈 子	学校給食センター所長	桐 坂 昇 司
教育指導課課長補佐	中 田 博 久	こども園準備室長	小 林 奈 津 子
図書館南分館長	中 川 公 子	図書館北分館長	谷 江 真 美 子
生駒駅前図書室長	入 井 知 子	スポーツ振興課課長補佐	大 畑 由 紀
教育総務課(書記)	吉 川 優 香	教育総務課(書記)	寺 川 寧 々

6 傍聴者 1名

午前9時30分 開会

○開会宣告

○日程第1 前回会議録の承認

○日程第2 教育長報告

・令和5年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果の概要について、花山教育指導課長から説明

<参照：資料1>

(質疑)

飯島委員：いじめの認知件数について、資料1を拝見すると、令和3年度は全国より30ポイント、令和5年度は20ポイント高いので、いじめを積極的に認知しようとしていると理解した。生駒市の推移を見てみると、令和3年から令和5年にかけて70数件とほぼ横ばいになっている。いじめの認知件数は長期的に減るべきだと考えるが、いじめの内容によるので悪いこととは限らない。積極的にいじめを認知する事によって意識が高まり、認知件数が増える一方で、些細な事でもいじめになるという認識が抑制の方向に働いてほしい。生駒市のいじめが、単に細かな事までいじめとして認知するようになった為に高い水準にとどまっているのか、行為そのものが減っていないという事なのか、十分見極めていただき子どもの指導に当たっていただきたい。

中川委員：暴力行為、認知件数などの調査は細かいところまで見るのが第一歩で、次に、どのような対処をするかが大事である。パーセンテージはなかなか減らないが、冷やかしからかいは子ども達が社会生活の中で関係すればするほど出てくるので、先生たちの研修や心理士の活用に加え、教育委員会の対応が大切であるので今後もお願いしたい。小中にかけて思春期に入っていくことで、殻に閉じこもって本人もどうしたらいいか分からない状況にある。見守りを続けることが大事である。どうかサポートルーム等を活用してその子の先を見た行動をしてほしい。特に感じるのは、親の不安が増えている事である。教育委員会の相談業務中心に、心理士やソーシャルワーカーも一緒に親の不安にも応えて行ってほしい。

吉尾委員：子どもたちの置かれている環境は厳しくなっていると感じた。親や兄弟や身近な人にすら話せなくなってしまっているというのはどういうことなのか。非認知能力の重要性は益々大きくなり、学校の学習の質と同じくらい非認知能力を高めていくことは大事である。学校訪問で先生方の授業を拝見すると、心に響くような話し方や言葉掛けを丁寧にされている先生を見かける。丁寧に心に寄り添うような優しい環境は、言葉にできなかった子ども達の心の声が出せるようになるかもしれない。教科担任制も進め

ていただいて、いろいろな先生方や大人と関われる環境を設けてあげてほしい。たくさん先生や地域の人に関わる事で様々な可能性がうまれてくると思う。生駒中学校が行っている県のフレキシブルスクールの授業の利用状況を教えていただきたい。

原井教育長：フレキシブルスクールについては、先日担当の田月先生と直接話しをさせていただいた。奈良県で、30人ほどの子ども達が利用している中で、その半数近くの子供が生駒中学校にある生駒校のフレキシブルスクールに繋がっている。奈良県でこのフレキシブルスクールが一番有効に活用されているのが本市ではないかと捉えている。県としては2年間の事業であると聞いている。来年度以降、奈良県教育委員会がどういう形で継続するのか、企画・相談しているところである。県内の不登校生徒数が増えている中で、奈良県教育委員会としてしっかり取り組まなければいけないという認識をもっていただいている。

吉尾委員：生駒市を選んで生活したいと思っていただいていると実感する。今後とも丁寧な対応を継続していただきたい。

レイノルズ委員：不登校生徒の人数の確認だが、先程のご報告でいきいきとのびのび併せて100名通っている。生駒市で不登校児童全体が334名だが、いきいきとのびのびの児童も不登校児童の数に入っているのか。今年度も同水準の不登校児童がいると考え、3分の1以上のお子さんは校内サポートルーム、フレキシブルスクール、市内の民間のフリースクール等の何らかの居場所があり、いろいろな過ごし方ができる。皆が画一的に一つの教室で学ばなければならない考え方のコロナ前と比べて不登校児童が倍増しているのは、マスク着用制限が無くなった最初の年だったので、全国的に数字に反映されているのではと推測する。不登校イコール悪いということではなく、それぞれの居場所や学び方がより尊重されていると捉えている。先程の報告にあるように、生駒市はあらゆるサポートや居場所づくりに力を入れているので、引き続き児童や保護者に対するサポートを常に模索しながらベストな形を進めていただきたい。中学校の校内サポートルームは2校ということだが、始めたばかりで既に良いご意見をいただいているので、今後他の学校にも展開していく予定を期待している。

原井教育長：校内サポートルームについては6月からスタートしてリニューアルしたのが10月である。この学校の成果を他の学校にも生かして欲しい。まずは中学校から取組を始めたが、小学校の不登校児童が非常に多くなってきている。低年齢化を踏まえてしっかりと見ていきたい。教育委員会としては不登校支援ガイドラインを作成中である。市として方針を現場の先生方や保護者の方と共有しながら進めていきたいと考えている。

○日程第3 報告第16号 臨時代理につき承認を求めることについて（令和6年生駒市議会第5回（12月）定例会提出議案の意見について）

・令和6年生駒市議会第5回（12月）定例会提出議案の意見について、山本教育総務課長、大畑幼保こども園課長、西スポーツ振興課長から説明

<参照：議案書p1～12、資料2～6>

（質疑）

レイノルズ委員：中学校体育館のエアコン空調設備に関する工事金が9億繰り越しであげられていたが、これは2025年度に中学校の体育館の空調設備が全て設置される工事計画なのか教えていただきたい。

山本課長：今年度中に補正予算で業者を選定する。4月頃から工事が入る予定で、早ければ夏休みの途中から使えるようにしたい。それが終われば小学校の整備に入りたい。生駒南小学校・生駒南中学校については、建替えがあるので、移動式の冷風扇という形で対応させていただきたいと考えている。

レイノルズ委員：中学校に関しては2025年度の夏までに取り付けられ、運用できるということで間違い無いか。

山本課長：これはあくまでも目標であり工事の進捗状況によるが、出来るだけ早く実現させたいと考えている。

レイノルズ委員：中学校体育館の空調設備の発注は7施設と、かなりの数がある大掛かりな工事になるので順序良く予定通り進むことを期待している。

中川委員：地域で使い易くなれば、運動のためにファミリーや高齢者の利用も増えると思われるので、利用料を取る等の見直しを考えて、使い易い形を今後も模索していただきたい。生駒市のテレワーク&インキュベーションセンタ一条例について、働き方等も変わってきているので、新しい形の人が集まる場所の見直しをお願いしたい。

吉尾委員：生駒市体育施設指定管理者の選定理由の中の「学校部活動の地域移行を見据えた新たな地域クラブ活動推進事業において、実施主体として活動場所の確保やスポーツ協会各競技団体及び実業団、プロチームからの指導者確保などの提案がされていること」という文言がある。学校部活動の今後を見据え、スムーズに地域移行が進められることが期待できる。資料3の審査結果報告書の5ページで、収支計画の経費の縮減は得点2となっている。具体的にどういうことなのか知りたい。それに対してどういった対策を行っていくのか。これからを見据えて教育大綱を踏まえた事業や取組を重視していただけるのはありがたいと思うし、選定理由の中にも市民が気楽に使えて、地域との接点や交流を大事にしていく方針が見えた。ぜひ地元にある誰もが使える公園のような体育施設を目指していただきたい。

西課長：経費縮減については指定管理料の上限額の提案がある。候補者から出た指定管理料の積算をもって5段階評価の点数をつけている。今回の指定管理料については物価上昇もあり、かなり厳しい設定額であるため2点という

結果になっている。使い易い施設は運営している地元のスポーツ協会が利用者目線で記載している。また部活の地域移行に関しても、指定管理者ではなく、スポーツ協会としてご協力いただいている。今回は指定管理者の指定管理業務の事業の一つとしてご提案いただいているのでこちらの方も進んでいくと期待している。

飯島委員：テレワーク&インキュベーションセンターの現在の稼働率を知りたい。ビジネスとしてかコミュニティの活動拠点としてかどちらの利用が多いのか。

坂谷部長：所管は地域活力創生部の商工観光課で、過日の議案説明では、創業支援事業により、多くの卒業生が創業を志向し、創業者間の交流が活発になってきていること、さらに、創業予定者の活動を活発にするには、創業予定者をはじめ、市民や事業者の「経験」や「知恵」を有機的に結びつけることができるスペースが必要となってきたことである。

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第4 報告第17号 教職員人事異動方針について

・教職員人事異動方針について、山本教育総務課長から説明

<参照：議案書p13～16>

(質疑)

レイノルズ委員：昨年は女性管理職の積極的な登用というのが4番目であったが、今年は2番目になっているのは優先順位の違いか、来年度の捉え方の表れなのか参考までに教えていただきたい。また、4の「特別支援教育・通級指導及び小中一貫教育の充実を目的とした、特別支援学校並びに小・中学校間の交流を積極的に進める」の項目で、昨年度に共有いただいた令和5年の重点項目の中に「国公立学校との交流」が入っていたが今回無くなっている。国公立は特色のある研究を生かした指導が特徴と思うがその交流内容、情報交換等していただけないのか内容が分からない。無くなった事情や理由などあればお聞かせいただきたい。

山本課長：順番については、県がどこを優先するかということが反映されていると思われる。どこも重点を置くので順番はあって無いようなものだと思う。国公立の交流が今回外れているのはなぜか分からない。

原井教育長：管理職の人材不足というのは県全域の危機であり課題である。やはり校長先生、教頭先生の成り手が少なくなっているということで、働き方改革も含めて若い女性教員の方に管理職の魅力をアピールしているので重点項目の2番目にきていると推測する。

レイノルズ委員：来年度の生徒数の減少が見込みで、学級数に伴う教員も少なくなるのではないかという見立てであるが、現状先生方の校務の時間が多く取れないと

いう話しを聞いている。生駒市ならではの特別加配や、スクールサポートスタッフ等の充実を同時に検討いただきたい。

飯島委員：女性管理職の積極的な登用を進めるというのは常に記載があり、小学校は若干増えているが中学校はほぼ変わらない。奈良県の特徴として、県外就業率が高いことや、共働き世帯が少ないことによって、男性は仕事、女性は家事というジェンダーロールの現状が子どもたちの中で強化されているのではないかと。子ども達は女性管理職の有無に関わらず、奈良県的なジェンダーロールを身に付けて育っている。日本は男女の差が色濃く残っている国であると国際的評価をされており、中でも奈良県は全国平均より遅れている。先生方には日常的にジェンダーロールのことやジェンダーバイアスのことを意識した指導をお願いしたい。そうすることで長期的には県内の女性管理職が増えていくことに繋がるだろう。子ども達の職業選択や家庭内のジェンダーロールのことには早く効果が出てくると思うので、ご指導をお願いしたい。

原井教育長：私が校長をしていたころは半分が女性校長で、他市町村の校長先生から羨ましいと言われていた。女性男性関係無く若い先生方が学校作りの魅力を伝えていけたらと思っている。校長・教頭は遅くまで学校に残らないといけないというイメージがあり、その中で子育てや親の介護などとの両立が非常に厳しいという声を聞くため、働き方の見直しを生駒市として取り組んでいきたい。

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第5 議案第28号 生駒市体育施設条例施行規則の一部を改正する規則の制定について

・生駒市体育施設条例施行規則の一部を改正する規則の制定について、西スポーツ振興課長から説明

<参照：議案書p17、資料7>

(質疑)なし

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第6 議案第29号 幼稚園教諭・保育士人事異動方針について

・幼稚園教諭・保育士人事異動方針について、大畑幼保こども園課長から説明

<参照：議案書p18～19>

(質疑)

吉尾委員：この基本方針は会計年度の職員も対象になってくるのか。

長崎指導主事：会計年度任用職員については、各課が採用しているものなのでこれについては正規職員にあたるものである。

吉尾委員：幼稚園の園児数が減少し、保育園の園児数が増加していく中で、人事配置や調整が大変難しくなってくる。職員が前向きに楽しく頑張って働いてくれる環境を是非考慮していただきたい。

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第7 その他

・壱分幼稚園の認定こども園整備事業について、大畑幼保こども園課長から説明

<参照：その他資料1>

(質疑)

吉尾委員：私事だが、なばた幼稚園に勤務していたが、なばた幼稚園の保育環境というのは園庭も広く静かな環境で、園児数が増加しても子ども達が幼児期に相応しい園生活を過ごすには適している。壱分幼稚園の子ども達は間借り状態である。迎え入れるなばた幼稚園ではウエルカムな気持ちを持った体制をしっかりとっていただきたい。壱分幼稚園の保護者や子ども達は不安や戸惑いがあると思う。担任や職員に変化が無いように対応をお願いしたい。2年間なばた幼稚園で一緒に過ごし、仲間が増えて良かったと思えるように対策を進めて欲しい。

レイノルズ委員：11月13日の時点でなばた幼稚園の保育案提示で各所調整いただいているがいつ頃に始まるのか。また、解体も補正予算で今年度中なのか来年度なのか教えていただきたい。

小林室長：3月の下旬から4月の初旬に解体工事の入札を行うことになっている。6月頃には工事に入って行く予定である。早ければ令和7年の4月もしくは9月から始動する予定である。

レイノルズ委員：なばた幼稚園は園児数が減っていると聞いているが施設の余剰等どうなっているか。

小林室長：5つの部屋が使える。3クラスが保育室、1クラスが職員室ということで、5つの内4つを使う予定である。

レイノルズ委員：通園バスについて、壱分幼稚園で園児をピックアップしてなばた幼稚園に送迎して行くということであるが、通常の保育でなく預かり保育のお子さんは時間がずれるのではないか。どのような対策をするのか。

小林室長：通園バス以外の時間帯で送迎が必要になる方については近隣の駐車場で、保護者が臨時に使えるスペースを確保できるように進めている。車が使えない方については個別確認をしていこうと思う。

レイノルズ委員：近隣施設も含めて上手く活用できるといい。また送迎が増えるのでなばた幼稚園近辺への説明もお願いしたい。

中川委員：私の子どももなばた幼稚園に行っている。1クラス数人しかいないので運動会も寂しい。幼稚園の子たちが集うということで、にぎやかな園の雰囲気に戻ってこれば良いと思うので良い方向に進めていただきたい。

・校務支援システム構築業務について、花山教育指導課長から説明
(質疑)

中川委員：学校の先生方は成績を付けたり、いろいろなソフトを使っているだろう。今後変えていくとなると、普段使っていたソフトが使えなくなるだろう。先生方の校務を考えて先生方の使い易いシステムを進めていただきたい。

飯島委員：全国的に見てグーグルが40%、マイクロソフトが30%と拮抗した導入率になっている。従来の状況に比べてはるかにデータ共有等はしやすく使い勝手も良くなっている。今後自治体によってマイクロソフト、グーグル、アップルのOSの違いによりデータ交換の利便が図られていこう。県とは違うシステムを導入した事を不安視するのではなく本市独自の取組を実現するため積極的に利用していただきたい。

吉尾委員：市内の中学生が生駒市を出て県内外に進学していくことも想定していると思うが、県内外に出ていった場合でも不利益が無いように考えていただきたい。

原井教育長：勤務時間、場所、先生方の現場、子ども達に絶対に不利益が無いよう、生駒市教育委員会として体制を考えていきたい。

・生駒南小学校・生駒南中学校整備事業について、山本教育総務課長から説明

<参照：その他資料2>

(質疑)

原井教育長：秋田県の五城目小学校の視察には、教育指導課、生涯学習課からも参加した。また、地域の方を対象にワークショップを開催した。このように積み重ねながら学校作りに向かっている。毎月このような形で報告させていただき情報共有しながら進めたい。

レイノルズ委員：意見交換に昨日参加した。参加人数や対象の人がまだ十分ではないと感じる。こちらから集まっておられる所に入っていく工夫が必要だ。こういう計画があるが意見をいただきたいと、積極的にネット世代の若い人を対象にアンケートを募るなどはどうか。意見が出しやすいのではないかと。教育のあり方について、まだ定まっていない部分に不安があったように思う。義務教育学校の視察を通して既存の学校との比較を丁寧に説明していただきたい。なぜ義務教育学校が良いのかということも知っていただく機会を続けていく努力が必要である。幅広い対象の方との対話の機会を続けるにはどのような方法が適切なのか、検討し対話を続けながら、南小中の最善の教育のあり方を協議しなければと認識した。

原井教育長：これまでの情報共有の中で関心が高いと感じたのは、校区についてである。地域の方からは南小の校区だけでなく、近隣の南地区の校区の小学校、中学校も巻き込んで話をしたいという意見も多く出ていた。地域の方との情報共有、意見聴取をいろいろなやり方で続けていきたい。今年度中には基本計画の策定をしていくので、年明けに総合教育会議の中で決定し、またこの場で報告したい。

飯島委員：学校の校舎を建て替えるのはめったにない機会である。今後半世紀に渡って使い勝手の良い校舎を作っていただきたい。調査を行い、良いところを取り入れてほしい。GIGAスクール構想で端末が1人1人に配備されたことによって、これまでとは違った電子黒板の使い方が生じた。オープンスペースが流行した時には、壁を設けず廊下側でつながっている教室が多く誕生した。ICT端末をより有効に使い、かつ今後50年、60年続く他の学校の参考になるような良い設計をしていただきたい。松本市にある旧開智学校は、5年前に国宝指定され、耐震化工事が終わりオープンした。訪れてみたが青い空に白い校舎が美しかった。150年前の日本の教育の黎明期に、使わなくなった寺の建材を利用した擬洋風学校建築で、地元の人達が校舎を誇りにし、学校を育てていこうとした願いが消えないよう学校づくりに関わっている。学校運営協議会がこれからもっと有効に働き、地域の方が学校づくりに参加している意識が持てるような形で新しい学校を設計し、引き続き良いアイデアを反映させてほしい。なおかつ学校の先生方がどのように空間を使うのかが最も重要であるので、現場の先生方の意見を取り入れて最終的な設計に生かし、完成に近づけていただきたい。

原井教育長：2日前、生駒南小学校の150周年記念式典があり出席させていただいた。これから新しく作っていく学校が、どんな教育をするのかが一番大事であると改めて感じた。生駒南小学校は自由進度学習という新しい学び方で子ども達が課題を見つけて自分で学んでいくという手法を取り入れた授業研究を市内では率先してやっている学校である。その教育を進めるためにはどういう教室、施設が必要なのかを飯島委員の言う通り、実際に教育を行う先生方の意見、子ども達の意見をしっかりと反映させながら学校づくりに取り組んでいきたい。

吉尾委員：視察をしたさつき学園やさくら小学校には大きなクスノキがあり、地域の方の要望で残すことになり、それを中心にデザインしたと言っておられた。飯島委員がおっしゃったように、歴史の中の古い部分から学ぶことがたくさんあると思う。スタート時に当たる保護者や子どもは不安やストレスもあると思われ大変難しいと思うが、長期的視野を持ち、ぶれてはいけない部分と、新しい生活をする子どもたちが安全安心に過ごせるというところをうまくミックスするのが大切である。賛成反対があっても当然である。主体とあるものがぶれなければ絶対に有効的に進んでいくと思う。

- ・令和6年12月行事予定について、山本教育総務課長、井川生涯学習課長から説明（質疑）なし

○閉会宣告

午後11時25分 閉会